

エコアクション21  
環境経営レポート



作成：2022年2月15日

対象期間：2021年1月～12月

株式会社 十辰製作所

代表取締役社長 五十嵐 良治

# 目 次

1. 事業活動概要
2. 環境経営方針
3. 実施体制
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画と取組の結果
6. 環境経営目標の実績と評価
7. 環境関連法規の遵守状況及び違反、訴訟等の有無
8. 代表者による評価・見直し
9. 次年度の数値目標及び取組内容
10. 地域環境活動

## 1. 事業活動概要

### (1) 事業者名及び代表者名

株式会社 十辰製作所  
代表取締役社長 五十嵐 良治

### (2) 所在地

▶ 本社 : 〒224-0003 神奈川県横浜市都筑区中川中央2-5-13  
メルヴェーサガノ303

Tel 045-591-8270 Fax 045-472-5859

▶ 岩手工場 : 〒028-0304 岩手県遠野市宮守町下宮守39-141-7

Tel 0198-67-2238 Fax 0198-67-3511

### (3) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 土澤 敏幸

連絡先 岩手工場と同じ

E-mail [t.tsuchizawa@iushin.jp](mailto:t.tsuchizawa@iushin.jp)

### (4) 事業内容

精密機械部品（エンジン部品、ロボット部品、油圧機器部品、他）の加工及び付随する材料  
調達、組立、塗装、治具設計製作

### (5) 事業規模

売上高 770百万円 (2021年度)

従業員数 41名 (2022年2月現在)

敷地面積 本社 2,356㎡

岩手工場 19,753㎡

床面積 本社 66㎡

岩手工場 2,970㎡

### (6) 認証登録範囲

本社と岩手工場の全組織・全事業活動・全従業員を対象範囲とする。

## 環境経営方針

「常にお客様に満足して頂くため、臨機応変にお客様のニーズに対応し、品質・納期・コストで信頼される製品及びサービスを提供する。これにより、当社の永続的発展と社会への貢献を達成する。」

株式会社十辰製作所は、地球環境の保全が現在人類が共有する最重要課題の一つであることを認識し、当社の事業活動のあらゆる分野で環境保全に配慮した活動に努め、社会の持続的な発展に貢献します。

### 環境行動指針

- 1 当社は、精密機械部品の製造、組立等の事業活動において、下記の事項への取り組みを通じて、環境に与える負荷の低減の継続的改善に努めます。

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| ①二酸化炭素排出量の削減        | ④生産効率向上によるエネルギーの削減 |
| ②水の使用量の削減           | ⑤不良品の削減            |
| ③廃棄物の分別の徹底とリサイクルの推進 | ⑥化学物質の適正管理         |

【課題】 ⇒ 不良品の削減

【チャンス】 ⇒ 技量の底上げによる全体のスキルアップ

- 2 事業活動に関連する法規制等を遵守します。
- 3 環境経営方針は、全社員に周知するとともに、教育・訓練を通じて社員の環境に対する意識向上を図ります。
- 4 エコアクション21ガイドラインに基づいて活動し、結果を環境経営レポートにまとめ、社内外に公開します。

制定：2010/4/26  
改定：2021/1/4（改7）  
株式会社 十辰製作所  
五十嵐 良治



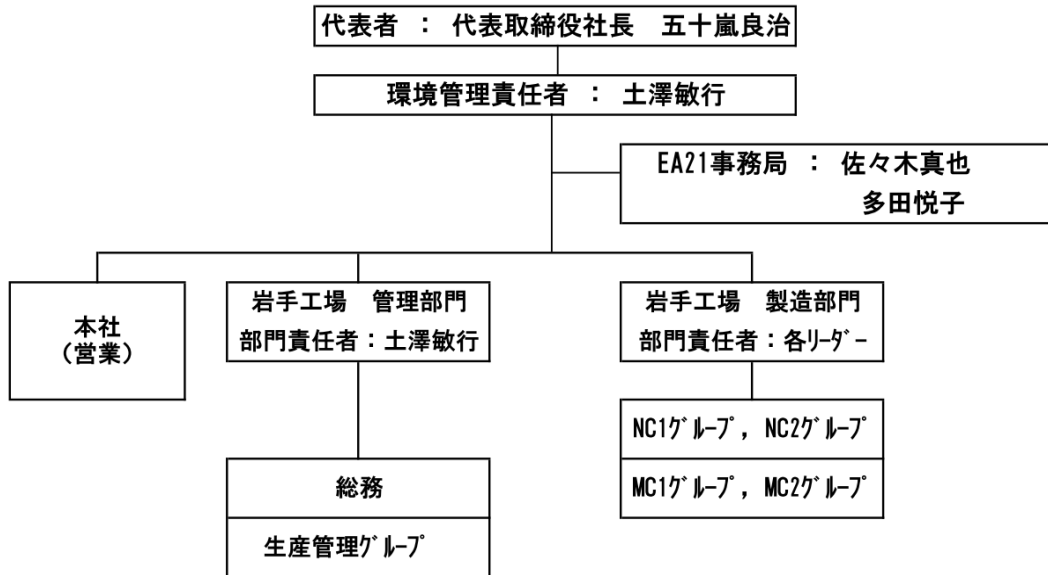
## 2. 実施体制

様式EA21-0301

### 実施体制

令和3年12月10日付

株式会社 十辰製作所  
代表取締役社長 五十嵐 良治



役割と責任・権限	
役割	責任・権限
代表者	①環境管理責任者を任命する。 ②環境管理責任者からの報告を受け全体の評価・見直しを行う。 ③取組に対する資源を用意する。 ④経営における課題とチャンスを確認にする。 ⑤環境経営方針の策定
環境管理責任者	①代表者に代わってシステムを構築し、運用する。 ②代表者に結果を報告する。 ③環境経営目標・取組計画を作成し、代表者の承認を受け、部門責任者に実施を指示する。 ④必要な教育訓練を計画し実施する。
部門責任者	部門内において、 ①省資源、省エネ、節水を奨励・実施する。実施結果を記録し事務局に報告する。 ②EA21目標達成の取組を推進し、チェックし、環境管理責任者の了承の下必要な是正処置・改善を行なう。 ③公害防止、緊急事態への予防処置を行なう。
事務局	①部門からの報告を受け、文書記録類を作成する。 ②外部からの苦情等に対するコミュニケーションを取り、対応内容を記録し、環境管理責任者に報告する。
社員	①部門責任者の下、省資源、省エネ、節水に努める。 ②EA21取組に関する教育訓練を受ける。 ③自主的に会社の推奨する地域の自然保護活動に参加する。 ④改善提案を行なう。

#### 4. 環境経営目標

##### (1) 2021年数値目標

項目	単位	区分け	ベンチマーク ※1	2021年目標	
①加工不良の削減	%/月	不良品	0.153	0.143	
②使用エネルギーの削減（電気）	kwh/日	電気	2346.42	2322.96	
③使用エネルギーの削減（軽油）	L/日	軽油	14.07	13.93	
④使用エネルギーの削減（ガソリン）	L/日	ガソリン	10.18	10.08	
⑤使用エネルギーの削減（灯油）	L/日	灯油	480.85	476.04	
⑥二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2/日	CO2	1782.76	1764.93	※2
⑦水使用量の削減	L/日	水	1878.45	1859.67	
⑧廃油処理量の削減	t/年	廃油	18.20	18.02	

※1 本社と岩手工場の合算で算出し、2020年のデータをベンチマークとする。  
不良率は前年実績を使用する。

※2 購入電力の二酸化炭素排出係数は以下を使用する。（2019年公表値）  
本社：東京電力の実排出係数0.432(kg-CO2/kWh)を使用  
岩手工場：東北電力の実排出係数0.432(kg-CO2/kWh)を使用

##### (2) 中期数値目標（対2020年度データ）

項目	単位	区分け	ベンチマーク	削減目標（毎年 -1.0%）		
				2021年度目標	2022年度目標	2023年度目標
①加工不良の削減	%/月	不良品	0.153	0.143	-	-
②使用エネルギーの削減（電気）	kwh/日	電気	2346.42	2322.96	2299.49	2276.03
③使用エネルギーの削減（軽油）	L/日	軽油	14.07	13.93	13.79	13.65
④使用エネルギーの削減（ガソリン）	L/日	ガソリン	10.18	10.08	9.98	9.87
⑤使用エネルギーの削減（灯油）	L/日	灯油	480.85	476.04	471.23	466.42
⑥二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2/日	CO2	1782.76	1764.93	1747.10	1729.28
⑦水使用量の削減	L/日	水	1878.45	1859.67	1840.88	1822.10
⑧廃油処理量の削減	t/年	廃油	18.20	1859.67	1840.88	1822.10

※加工不良の削減については毎年目標を設定する。

##### (3) その他取組

- ⑨グリーン購入の推進
- ⑩化学物質の適正管理

5. 環境経営計画と取組の結果

レビュー実施: 2022年 1月 28日

<b>2021年度 環境経営計画</b>	代表者	管理責任者	事務局

環境経営計画			実施状況												総評	
	取組内容	関係部門	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
1.加工不良の削減	加工不良	①不良荷札の記入	製造部	←→												今までの取組みに加えて、社内不良についてグループディスカッションを行う場を設けた。社員同士の意見交換も積極的に行われており、着実に効果は出てきている。
		②月次の不良対策グループ活動	製造部 品質保証部	←→												
		③月次昼礼での注意喚起	品質保証部	←→												
2.使用エネルギーの削減	電気	④稼働監視システムの活用（生産効率の向上）	製造部	←→												稼働監視システムを導入したことにより、設備の稼働状況の見える化が出来るようになった。今期は現状把握がメインだったため、来期から各グループ毎に改善活動を行い、どれくらい向上出来るか楽しみである。
		⑤稼働停止設備の電源OFF	製造部	←→												
		⑥休憩時の設備/照明/OA機器の電源OFF	全社	←→												
		⑦OA機器の省電力設定	全社	←→												
	軽油	⑧トラックのエコドライブ	業務部	←→												7月にトラックを買換えた。積載量が多くなったため、今まで不定期であった運行を火・金に集約することで、納品の効率化を図ることが出来た。
		⑨納品の効率化	業務部	←→												
		⑩フォークリフトのアイドリングストップ	全社	←→												
	ガソリン	⑪エコドライブを心掛ける（急発進/急加速）	全社	←→												10月に社用車を買換えた。全車に比べて5割程燃費が向上した。
		⑫停車時のアイドリングストップ	全社	←→												
	灯油 ※冬期（11～3月）	⑬暖房設備の設定温度16℃	全社	←→												灯油の高騰もあり、服装の調整もしながら、使用量の低減を心掛けた。
⑭ビニールカーテンでの間仕切り		全社	←→													
⑮不使用エリアの電源OFF		全社	←→													
3.二酸化炭素排出量の削減	エネルギー全般	⑯使用エネルギーの削減	全社	←→												新しい取組みを行ったことで、全体的に低減することが出来た。
4.水使用量の削減	水道	⑰節水注意喚起の表示	全社	←→												切削水や洗浄水の交換頻度に気を付けながら、水の使用量削減を心掛けた。9月に洗浄アイテムの見直しを行ったことで、洗浄作業の削減をすることが出来た。
		⑱蛇口の閉め忘れ注意	全社	←→												
		⑲切削水交換の適正化	製造部	←→												
		⑳洗浄水使用の適正化	業務部	←→												
5.廃油処理量の削減	廃油(切削水)	㉑切削水交換の適正化	製造部	←→												適切に交換することで、昨年度より処分量を削減することが出来た。
6.グリーン購入の推進	事務用品	㉒グリーン商品の積極的購入	業務部	←→												事務用品について代替可能な物については、ほとんど切替をすることが出来た。
7.化学物質管理	PRTR対象品	㉓PRTR対象品の購入量の把握	業務部	←→												塗料・オイル類の価格高騰もあり、価格改定前の一時的な購入量増加はあったが、無駄の無いように心掛けて使用していた。
		㉔5Sバトロールによる使用状況の確認	全社	←→												



6. 環境経営目標の実績と評価

# 年間稼働日数：279日

レビュー実施：2022年 1月 21日

2021年度 環境経営目標										代表者	管理責任者	事務局
												

環境経営目標							1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	中間 評価	年度末 評価		
項目	基準値 2020年	2021年	2022年	2023年	関係部門	取組内容	数値												上期平均	年間平均		
							1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
1.加工不良の削減	加工不良率 (%) ※不良数/納品数	0.153	-6.25%	※各年毎に策定	※各年毎に策定	製造部 品質保証部	・不良荷札の記入 ・月次の不良対策グループ活動 ・月次昼礼での注意喚起	0.143 %												0.100	0.097	
			0.143	※各年毎に策定	※各年毎に策定			実績	0.096	0.163	0.114	0.067	0.097	0.061	0.129	0.073	0.052	0.074	0.191	0.044	144%	148%
2.使用エネルギーの削減	① 電気 (kwh/日)	2346.42	-1%	-2%	-3%	全社	・稼働監視システムの活用 ・稼働停止設備のOFF ・休憩時の設備/照明/OA機器のOFF ・OA機器の省電力設定	2322.96 kwh/日												2148.32	2224.81	
			2322.96	2299.49	2276.03			実績	2010.36	2422.13	1971.60	2139.40	2050.62	2295.83	2261.09	2492.35	2349.00	2096.71	2221.96	2386.70	108%	104%
	② 軽油 (L/日)	14.07	-1%	-2%	-3%	全社	・トラックのエコドライブ ・納品の効率化 ・フォークリフトのアイドリングストップ	13.93 L/日												15.33	15.90	
			13.93	13.79	13.65			実績	22.04	21.67	10.99	6.78	21.92	8.55	20.69	11.87	23.99	10.21	13.05	19.04	91%	88%
	③ ガソリン (L/日)	10.18	-1%	-2%	-3%	全社	・エコドライブを心掛ける ・停車時のアイドリングストップ	10.08 L/日												8.38	8.84	
			10.08	9.98	9.87			実績	9.60	6.21	8.65	8.00	11.17	6.66	9.22	9.73	9.03	9.92	8.10	9.74	120%	114%
	④ 灯油 (L/日) ※冬期 (11~3月)	480.85	-1%	-2%	-3%	全社	・暖房の設定温度16℃ ・ビニールカーテンでの間仕切り ・不使用エリアのOFF	476.04 L/日												559.81	479.10	
			476.04	471.23	466.42			実績	621.82	643.75	292.40	54.80	60.00	6.67	0.00	0.00	0.00	63.54	230.80	421.74	85%	99%
3.二酸化炭素排出量の削減	①②③④ (kg-CO2/日)	1782.76	-1%	-2%	-3%	全社	・使用エネルギーの削減	1764.93 kg-CO2/日												1684.02	1519.71	
			1764.93	1747.10	1729.28			実績	2495.92	2719.61	1628.22	1096.72	1117.74	1045.93	1051.56	1129.89	1097.62	1113.35	1587.03	2152.91	105%	116%
4.水使用量の削減	水道 (L/日)	1878.45	-1%	-2%	-3%	全社	・節水注意喚起の表示 ・蛇口の閉め忘れ注意 ・切替水交換の適正化 ・洗浄水使用の適正化	1859.67 L/日												1680.00	1728.05	
			1859.67	1840.88	1822.10			実績	1477.27	1895.83	1540.00	1780.00	1761.90	1625.00	1804.35	2325.00	1652.17	1833.33	1520.00	1521.74	111%	108%
5.廃油処理量の削減	廃油(切削水) (t/年)	18.2	-1%	-2%	-3%	製造部	・切削水交換の適正化	18.20 t/年												0.00	14.99	
			18.02	17.84	17.65			実績	0.00						14.99						-	120%
6.グリーン購入の推進	事務用品	-	-	-	-	業務部	・グリーン商品の積極的購入	実績	6	5	6	6	7	8	6	6	5	7	8	8	上期累計 38	年間累計 78
7.化学物質管理	PRTR対象品	-	-	-	-	全社	・PRTR対象物の購入量の把握 ・5S/パトロールによる使用状況の確認	実績	※PRTR対象品購入履歴 参照												上期累計 -	年間累計 -

達成度	5：110%以上	目標を大きく上回る成果が達成できた	代表者	管理責任者	事務局	代表者	管理責任者	事務局	株式会社 十辰製作所
	4：100%~110%未満	目標とした成果が達成できた							



## 7. 環境関連法規の遵守状況及び違反、訴訟等の有無

### 環境関連法規 取りまとめ表

最新情報の確認 <https://elaws.e-gov.go.jp/>

最新確認：2021/12/20  
適合確認：2021/12/20  
株式会社十辰製作所

代表者	実施者

区分	法規等の名称	施行日	適用される条項	該当する要求事項	該当項目	チェック	備考
環境全般	環境基本法	令和3年9月1日	第8条	事業者の責務（ばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害防止、自然環境の保全に必要な処置を講ずる。）	事業活動全般	○	
	地球温暖化対策の推進に関する法律	令和3年6月2日	第5条	事業者の責務（温室効果ガス排出の抑制に努める）	事業活動全般	○	
	<a href="#">岩手県環境の保全及び創造に関する基本条例</a>	平成11年12月17日	第5条	リサイクルの促進、環境負荷の低減	事業活動全般	○	
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）	令和2年4月1日	第12条2項	産業廃棄物保管の基準（保管場所表示60×60等） *蛍光灯は、「水銀含有製品産業廃棄物」の明示	廃棄物の取り扱い	○	
			第12条5項	産業廃棄物処理は、許可業者に委託する。	廃棄物の取り扱い	○	
			第12条7項	委託した産業廃棄物処理状況を確認するよう努める。（排出者責任）	廃棄物の取り扱い	○	
			第12条の3	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付	マニフェスト	○	
			第12条の3 第7項	産業廃棄物管理票交付状況報告（6/30まで）	マニフェスト	○	年1回 報告書を提出
			第12条の3 第8項	廃棄物管理票返送遅延時の届け出（D票90日、E票180日）	マニフェスト	○	
			第12条の3 第10項	廃棄物管理票の保存（5年間）	マニフェスト	○	5年保管
	<a href="#">岩手県循環型地域社会の形成に関する条例</a>	令和元年10月30日	第5条	廃棄物の削減及び適正処理	廃棄物の取り扱い	○	
大気汚染	大気汚染防止法	令和3年4月1日	第2条 別表第1	伝熱面積10㎡以上は届出が必要 燃焼能力50ℓ/H以上は届出が必要	ボイラー	○ (0.33㎡) ○ (5.25 ℓ/H)	規格未滿により届出不要
フロン	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）	令和3年4月1日	第16条	業務用冷凍機器：1回/3ヶ月の簡易点検 業務用冷凍機器（7.5kw以上）：1回/年の定期点検	空気圧縮機（15kw）	○（日常点検） ○（メーカーの年次点検）	
騒音	騒音規制法	平成28年4月1日	第5条	定格出力7.5kw以上は届出が必要	空気圧縮機	○（15kw×2）	※届出対象外地区
振動	振動規制法	平成28年4月1日	第5条	定格出力7.5kw以上は届出が必要	空気圧縮機	○（15kw×2）	※届出対象外地区
危険物	<a href="#">遠野市火災予防条例</a>	令和3年4月1日	第46条	指定数量未滿の危険物等の貯蔵及び取扱いの届け出	灯油、軽油タンク	○	消防署に届け出済み
	消防法	令和3年9月1日	第10条	第4類第1石油類 非水溶性 指定数量200ℓ	溶剤	○	少量危険物保管庫にて 190ℓ以内で保管
				第4類第2石油類 非水溶性 指定数量1,000ℓ	塗料	○	
			第4類第2石油類 非水溶性 指定数量1,000ℓ	灯油	○ (450ℓホームタンク×6)	少量危険物届出済み	
				軽油	○ (450ℓホームタンク×1)		
				オイル類	○		
			第17条	設置の有無	火災報知器/消火器/動力消防ポンプ	○	
			第21条の4	消防設備の点検と報告		○	報告は3年に1回
化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	平成11年7月13日	施行令第4条	第一種指定化学物質の取扱いが年に1t以上の場合は届出必要 特別第一種指定化学物質の取扱いが年に0.5t以上の場合は届出必要	溶剤 塗料	○（既定値以下） ○（既定値以下）	

※チェックは年1回実施する。適性：○、一部要改善：△、不適正：×、一部要改善及び不適正の場合は、是正処置を実施。

環境関連法規チェック表で確認をして、環境関連法規への違反はありませんでした。  
また、過去3年間で関係機関からの指摘ならびに利害関係者からの訴訟や苦情もありませんでした。

## 8. 代表者による評価・見直し

### 1、環境管理責任者からの報告内容

評価項目	内 容
①環境関連法の遵守状況	昨年関連法規の不足が見られたため、見直しを行った。 指摘事項があった際は、都度アップデートしていきたい。
②環境経営目標の達成状況及び環境活動経営計画の実施状況その評価結果	全体的にエネルギー使用量は削減されていた。 加工不良についても昨年度に比べて36%減少することが出来、活動の効果が見られる。 また、新しい取り組みの多い1年となり、会社全体が良い方向に向かっているのが実感出来た。
③問題点の是正処置及び予防処置の結果	トラック積載量が増えたことで効率的な運送が出来ていた。
④外部からの苦情等の受付結果	苦情はありませんでした。
⑤組織に影響する法規制動向	大きな法規制の変更は見られなかった。
⑥取引先からの「グリーン調達」情報	価格を考慮した上で、積極的に継続購入していきたい。
⑦エコアクション環境改善提案	不良削減や作業効率アップ等の改善提案が多数であった。 小さなことからコツコツと積み重ねて行って欲しい。
⑧その他	特にありません。

### 2、代表者による見直し等の指示

見直し項目	評 価	指 示 事 項
①環境経営方針	分かり易く社員に浸透している。	現状を維持する。
②環境経営目標	基準値の変更により目標値がすっきりした印象。加工不良の削減が大きく進んだことは評価したい。不良対策の活動が寄与していると思われる。また、生産量が増えた中で、電気、ガソリン、水使用量、廃油処理量の削減が出来たことも評価したい。	加工不良の削減は大きく進み、これ以上の削減が難しければ現状維持でかまわない。軽油の削減については、トラック大型化の効果を今年1年で見極めてもらいたい。
③環境活動経営計画	継続的な活動が出来た。加工不良削減では、不良対策の活動を計画に落とし込めたのが良かった。	今冬は寒く現状の方策では、灯油使用量の増加が見込まれる。灯油使用量の削減に向けて、工場全体の気密性を高める等、抜本的な方策を検討してもらいたい。
④環境経営システム	問題なし。	現状を維持する。
⑤実施体制	問題なし。	現状を維持する。
⑥全体総括	新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、受注は比較的安定した1年であった。生産量も増え売上高は+30%の見込みである。その中で加工不良、水使用量、廃油処理量の削減が進んだことは収穫であった。	昨年開始した不良対策の活動は、環境活動経営計画に落とし込むことが出来た。同様に昨年スタートした効率アップの活動が、環境目標の達成に向けて助けになるか見極めて欲しい。
⑦その他	特に無し	特に無し

## 9. 次年度の数値目標及び取組内容

### (1) 2022年数値目標

項目	単位	区分け	ベンチマーク ※1	2022年目標
①加工不良の削減	%/月	不良品	0.097	0.092
②使用エネルギーの削減（電気）	kwh/日	電気	2346.42	2299.49
③使用エネルギーの削減（軽油）	L/日	軽油	14.07	13.79
④使用エネルギーの削減（ガソリン）	L/日	ガソリン	10.18	9.98
⑤使用エネルギーの削減（灯油）	L/日	灯油	480.85	471.23
⑥二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2/日	CO2	1782.76	1747.10
⑦水使用量の削減	L/日	水	1878.45	1840.88
⑧廃油処理量の削減	t/年	廃油	18.20	17.84

※2

※1 本社と岩手工場の合算で算出し、2020年のデータをベンチマークとする。  
不良率は前年実績を使用する。

※2 購入電力の二酸化炭素排出係数は以下を使用する。（2019年公表値）  
本社：東京電力の実排出係数0.432(kg-CO2/kWh)を使用  
岩手工場：東北電力の実排出係数0.432(kg-CO2/kWh)を使用

### (2) 2022年取組内容

項目	取組内容
①加工不良の削減	不良荷札の記入
	月次の不良対策グループ活動
	月次昼礼での注意喚起
②使用エネルギーの削減（電気）	稼働監視システムの活用（効率化アップ活動）
	稼働停止設備の電源OFF
	休憩時の設備/照明/OA機器の電源OFF
	OA機器の省電力設定
③使用エネルギーの削減（軽油）	トラックのエコドライブ
	納品の効率化
	フォークリフトのアイドリングストップ
④使用エネルギーの削減（ガソリン）	エコドライブを心掛ける
	停車時のアイドリングストップ
⑤使用エネルギーの削減（灯油）	暖房設備の設定温度16℃
	ビニールカーテンでの間仕切り 不使用エリアの暖房OFF
⑥二酸化炭素排出量の削減	使用エネルギーの削減
⑦水使用量の削減	節水注意喚起の表示
	蛇口の閉め忘れ注意
	切削水交換の適正化
	洗浄水使用の適正化
⑧廃油処理量の削減	切削水交換の適正化
⑨グリーン購入の推進	グリーン商品の積極的購入
⑧化学物質管理	PRTR対象品の購入量の把握
	5Sパトロールによる使用状況の確認

## 10. 地域環境活動

今年はコロナ禍ということもあり、活動を中止とした。  
来期は例年通り実施したい。